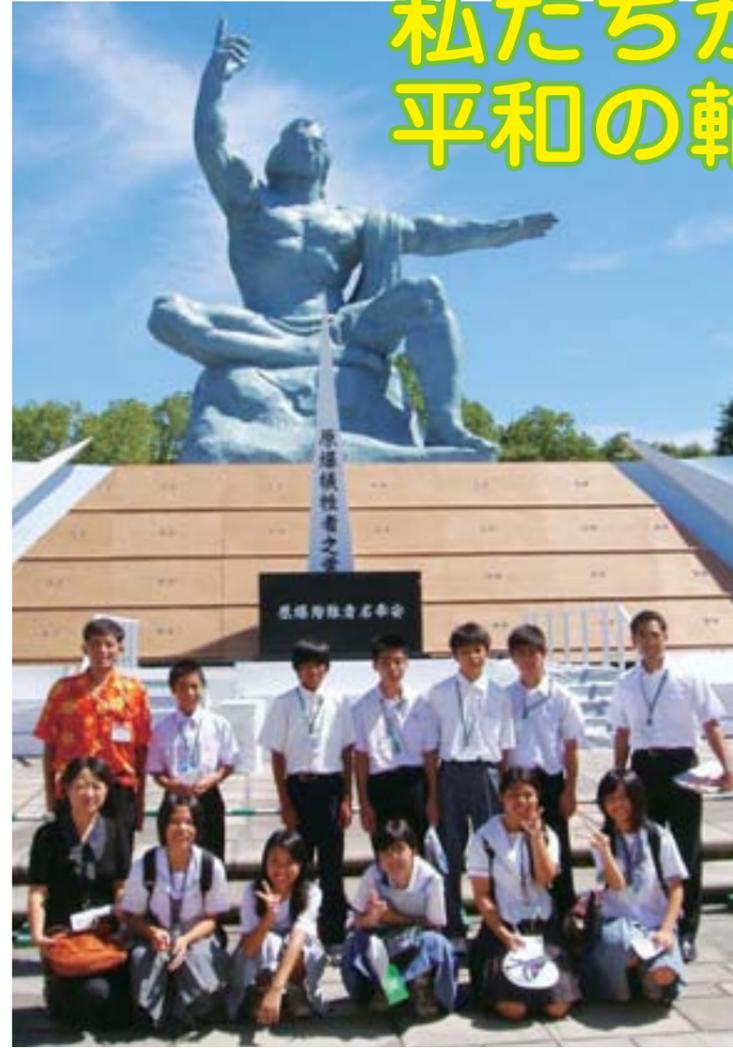


私たちがから 平和の輪を広げたい

中学生平和交流事業



8月7日～10日の日程で、浦添市中学生平和交流団12人（中学生10人・引率2人）が被爆地の長崎市を訪問しました。

浦添市では「平和都市宣言」、「核兵器廃絶宣言」を制定しており、平和に対する意識をさらに高めるために、戦後50周年にあたる平成8年度から中学生平和交流団を県外へ派遣しています。平和学習を通して未来を担う中学生

が戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び、次世代へと伝えて行くことを目的としています。

14回目となる今年度は、長崎市を訪問し、原爆資料館見学、原爆犠牲者慰霊平和式典への参列、青少年ピースフォーラムへの参加などを通して被爆の実相を学び、戦争のない社会をどのように実現していくか意見交換を行いました。

青少年ピースフォーラム



8月8日・9日の2日間にわたり意見交換が行われました。全国の小・中・高校生236名が参加し、「被爆の実相を伝えるためにできること」「平和な世界をつくるためにできること」について互いに意見を出し合い、平和について考えました。

恵の丘長崎原爆ホーム

◆被爆者体験講話◆
高山スズエさんは、死体の山の中、火の海の中を歩き、安全な小学校を目指し歩き続けたことなどの当時の様子を語り、二度と戦争を起こしてはならないことを伝えてくれました。

◆交流会◆
講話の後に、ホームの方々と交流会を行いました。交流

事前研修



事前研修では沖縄戦について学習しました。第1回事前研修では前田高地や浦添城跡など、市内の戦跡巡りをし、第2回事前研修では市外のナゲーラの壕、識名の壕、平和資料館、平和の礎の見学を行い、実際に壕の中も体験しました。

交流団は同じ中学生が戦場で働いていたというガイドの説明に真剣に耳を傾けていました。

▼エイサー「ミルクムナリ」



▲被爆者体験談を話してくれた高山スズエさん

団はエイサー「ミルクムナリ」を披露し、ホームの方々と交流を深めました。

長崎平和祈念式典



長崎平和公園では、長崎平和祈念式典が行われ、原爆が投下された8月9日午前11時2分にあわせて参列者全員で黙とうを捧げ、一人でも多くの人に平和と命の尊さを伝え続けることを誓いました。



交流団員の報告



神森中 東恩納美月

激しい戦争の中、必死に生きてきた人たちが、戦争の悲惨な現実やつらい体験を話してくれたから、今の平和があると思いました。「もう二度と戦争はしない」という思いを新たに、戦争の記憶を風化させず、次の世代へ伝えていくために、私たちは語り継がなければなりません。今ある平和を守り続けていきたいです。



浦添中 比嘉宣友

実際に長崎市を見学し、被爆体験談を聞き、原子爆弾や放射線がどれだけ恐ろしいかが分かりました。長崎県では、小学生・中学生が理解しやすいように、長崎原爆の事実を紙芝居を作成して、継承していました。戦争の恐ろしさや悲惨さを私のできる方法で、もっと多くの人々に伝えていきたいと思いました。



浦添中 伊禮菜々瀬

今回の研修で、沖縄戦と違って、長崎・広島県では、原子爆弾という恐ろしい爆弾によって多くの人々が亡くなった事実を知りました。この事実をもっと多くの人に伝えていくために、自分にはできることは何かを考え、友達や家族など多くの人に伝えていきたいです。



神森中 田場潤也

今、幸せに満ちた生活を送っていることに気づきました。この平和な時に感謝し、日々を大切に暮らしたいです。現在、戦争体験者が高齢のため少なくなっているため、後世に語り伝える人にできるだけ協力をして、多くの人に戦争の悲惨さや平和の意味を伝えていきたいです。



仲西中 赤嶺希

核兵器は恐ろしく悪く、これからは使ったり、作ったりしてはいけないことを学びました。式典では、日本も外国も核兵器廃絶運動があり、過去の過ちを反省していることがわかりました。多くの場所で平和な社会を語り継いでいきたいです。



仲西中 兼島愛乃

戦争は人が起こすものです。平和を願い、戦争はダメという認識をもち、戦争の恐ろしさと平和のすばらしさを伝え続ける必要があります。地上戦があった沖縄に住んでいる私たちは、後世に伝えていく義務があります。私たちが平和の輪を広げていきたいです。



港川中 神里梨乃

私の住む浦添市も激戦地だったという事実を初めて知り、戦争を知らない私たちにも事実をありのままに伝えていくことが大切だと思いました。悲惨な歴史を繰り返さないためにも私たちが平和の尊さを考え、次の世代へ語り継ぐ必要があると思います。



港川中 上江洲大

原爆から64年たった今も原爆の被害で苦しんでいる人がいることを知り、平和の大切さを実感し、今の日本は平和だと思いました。二度と同じことを繰り返さないために、自分から行動を起こせば一歩ずつ平和な社会へ近づけると感じています。



浦西中 東恩納寛汰

戦争体験者の苦悩は、想像できないほどの辛さだと感じました。もう絶対に戦争を起こしてはいけない。平和な世の中にするために、相手のことを思いやり、困っている人に手を差し伸べたりして、自分の周りですることからはじめようと思います。



浦西中 宮城芙妃

今を生きる私たちは、日々の生活に感謝しなくてはなりません。食事をしたり、テレビを見たりできる平和な生活を守るために、自分に何が出来るかを真剣に考えていかなければなりません。世界中の人が力をあわせて平和を願えば平和な世界を築き続けることができると感じています。